ISSN 0388−5569
VOL. 19 No. 2
（通巻56号）
1998. 8

Library News

山口大学附属図書館報

目次

文献資料の充実こそ図書館の基本 …… 1
私たちは『戦争と平和』を
　コンピュータ画面上で読むようになるのか？ … 2
本学関係教官寄贈図書 …… 5
トピックス－①－ …… 5
平成９年度図書館統計表 …… 6
平成10年度附属図書館関係各種委員会名簿 …… 7
図書館事務組織の再編について …… 8
人事異動 …… 8
日　　誌 …… 9
トピックス－②－ …… 10

文献資料の充実こそ図書館の基本

附属図書館本館資料選定委員長
経済学部助教授　　田淵　太一

図書館の電子情報化の必要性が声高に叫ばれている。全国の大学図書館を見わたしても、その方向で多大な成果を上げつつあるケースが増えてきており、私たちの図書館でもそうした成功例をよく調査し、学ぶべきであるのは言うまでもない。とはいえ、図書館の基本的使命が文献資料の充実にあり、それがいわば図書館の足腰にあたる、ということもまた事実であろう。重要なのは、予算の厳しい制約のもとで、両者のバランスのとれた発展を模索することである。

書籍や学術雑誌といった文献資料が、依然として研究・教育の両面における活動エネルギーの主要な源泉となっていることは、言をまたない。ところが、現下の厳しい予算削減の圧力のもとで、この重要な知的資産を確保することすら難しい状況に陥っている。

たとえば私ども経済学部では、図書予算だけは前年度予算を下回らないようにするという暗黙のルールがこれまで存在してきたにもかかわらず、今年度予算では、ここ数十年ではじめて図書予算の減額を余儀なくされた。それに加えて、来年度の予算状況が今年度よりさらに深刻化することが見込まれるため、来年度購入の学術雑誌を、400万円強の規模で削減せざるをえなくなった。雑誌は、言うまでもなく継続購入を行ってこそ意味のあるものだが、それを削らなければならないというのは、重大である。しかも例年の雑誌購入額が、3400万円のところに400万円強の削減であるから、知的資産の損失と研究・教育活動への悪影響は、かなり深刻である。他学部の予算状況については不明であるが、経済ほどではないにせよ、厳しい状況にあることは事実であろう。

問題は、このような深刻な図書予算の現状のもとで、文献資料の充実をこれ以上圧迫せずに、電子情報化を推進する原資を新たに確保することは可能か、という点に存する。書籍や学術雑誌を犠牲にすることなしに、いかにして高価な電子データベースを購入できるのだろうか。

本年度、私は、建制順の輪番で、附属図書館本館資料選定委員長の役目を負っている。資料選定委員会とは、全学の教育に欠くべからざる意味をもつ「学習用図書」の選定を行うことが主な役割である。そのために、吉田地区の委員が月１回参集して審議を行っているのだが、その場で直接決定される「学習用図書」の年間予算は、せいぜい150万円弱の規模にとどまっている。「月間」でなく「年間」の予算が、である。近い将来、この予算が大幅に増額される見込みは、いまのところない。このような現実を目のあたりにして、

電子情報の充実という方向性に対して、理解はできるにしても、大きな矛盾を感じざるをえない。

ＣＤ－ＲＯＭデータベースの現在の値付けはあまりにも高価であり、ものにもよるが、１点で300万円前後にものぼる場合がごく普通だからである（更新費目は別途）。経済理論でいうところの「機会費用」（別の選択を行った場合に得られるメリット）を考慮する必要がある。300万円のデータベースを1点購入するかわりに、書籍や学術雑誌を購入すれば、文献資料の充実がどれほど達成されるだろうか、というふうに。

図書館の利用者としての立場で言わせていただくならば、私はこれまで、京都大学の図書館を９年間、さらに、東京大学の図書館を３年間、利用した経験をもっている。予算規模が桁違いなので、当然のことかもしれないが、両者の文献資料の充実ぶりは圧倒的であった。所蔵されていない資料がめったにないほどで、とりわけ後者のＯＰＡＣ検索システムは、プリントアウトがそのまま文献目録になるほどであった。最近、その東京大学図書館長の新聞投稿を目にした（『朝日新聞』７月22日付）。圧倒的に豊富な予算を有するはずの東大図書館でも、金のかかる電子情報化によって文献資料の充実が圧迫されることが問題になっているという。この事実から、私たちの図書館は何を学ぶべきだろうか。

電子情報データベースは現在、あまりに高い値付けがなされている一方で、私たちの図書予算はあまりに限られている。このような状況の下で、図書館の電子情報化を急なテンポで実施するべきではなかろうし、また現実にそれは不可能なのではないだろうか。

東大、京大の図書館に対して、予算面で圧倒的な格差が存在するのは明らかだが、それでも図書館の果たす役割の面で学ぶべき点はもちろん多い。それは、図書館が学生を中心とした利用者で日々混み合うほど利用されているという点である。そういった利用状況が、文献資料や各種サービスの充実に裏打ちされたものであることは確かだが、そればかりでなく、特定の利用目的がなくても学生が図書館に足を運ぶような習慣、やや大袈裟に言えば文化が、根付いている面も大きい。そうした利用者を受け入れるだけのラウンジ的な公共空間も、当然のように用意されている。

利用者がもっと「足を運ぶ」ようにするために、まず基本的な文献資料の充実を図り、さらに通風の徹底や整理の迅速化など書庫の管理を向上し、公共スペースを拡大する、といった地道な努力を私たちは怠ってはならない。電子情報化といった巨大プロジェクトは、特別な予算措置が可能になれば大いに結構だが、文献資料の充実といった図書館の基本的使命が何よりもまず優先されるべきだし、それが犠牲にされることは絶対にあってはならない。

私たちは『戦争と平和』をコンピュータ画面上で読むようになるのか？

人文学部助教授　石川　巧

はじめに

さる７月３日、人文学部では「21世紀後半を読むプロジェクト」のひとつとして、電子図書館プロジェクトの最先端で活躍する田屋裕之氏（国立国会図書館主任参事）を招き、講演とシンポジウムを開催した。講演会では、これまで取り組んできた事業内容や研究課題の報告をふまえ、知識・情報・文化の分散と統合のあり方、仮想空間におけるリアリティの問題などにまで話題が展開した。また４名のパネリストを加えたシンポジウムでは、さらに図書館の現場と、その蔵書・資料を使う研究者それぞれの立場から率直な意見の交換と提言が寄せられた（注１）。

電子図書館とは何か

話題の中心となった電子図書館とは、通信ネットワークを介して、資料および資料に関する情報を電子的に提供する基盤としての図書館を意味し、具体的には2002年に開館する

国立国会図書館関西館の構想などに反映されている。そこでは、本や雑誌といった印刷物を手に取り、ページをめくりながらそこに書かれた文字・画像を読み進めるという行為の自明性が完全に崩壊しているのである。

国立国会図書館がまとめた「電子図書館構想」(1998年5月)によれば、その利点は、

○地域等による情報アクセスの格差の是正
○様々な種類の情報の総合的な入手と利用
○情報通信技術を用いた多様な機能の実現
○情報へのアクセスにおける経済性と効率性の実現

の4点に集約されるという。

自宅や職場からインターネットを利用して図書目録や記事の項目を検索することは現在でも可能だが、近い将来、電子図書館が実現すれば、印刷物の内容そのものをモニター上で読むことができるようになり、私たちは、図書館に出かけなくてもいいようになるばかりか本を手に取る必要さえなくなる。貴重文献の保存、情報探索の効率化とネットワーク化、地域格差のない在宅閲覧サービスの実現など、そこには様々な可能性が期待されているのである(注2)。

しかし、はたして私たちは、必要な情報を入手することだけを目的として図書館を利用しているのだろうか。活字を「読む」ことの快楽はモニター上の画像で十全に満たされるというのだろうか。本稿では、この疑問をめぐって私の考えるところを自由に述べさせていただく。

電子書籍について

まったく偶然のことであるが、この講演会当日の新聞には電子図書館構想に大きな影響を与えると思われる「電子書籍」実用化の記事が掲載されている。――通信衛星に打ち上げたデータを書店やコンビニに設置した端末で受信し、読者がそこから高密度のミニディスクなどに読みたいデータを取り込みシステムが実現しそうだ、というのがその主旨である。記事によれば、端末は5～6万円とやや高額だが、紙代、印刷代、在庫の保管代などが不要になるため、いまの書籍の半額程度の価格で販売できるし、読書専用の端末を本の形態に近づけることで、まるでページをめくるような感覚で液晶画面を読むこともできるという(以上、7月3日付「朝日新聞」朝刊より)。

この電子書籍については、田屋裕之氏も1983年の段階で登場を予言しており、「このような装置が出現したならば、記憶装置に書物の頁を覚え込ませるのと同じ要領で商品のカタログやコンピュータゲームを覚え込ませることもできるようになるであろうし、コンピュータを利用した学習機器としても使えるだろう。その他メモ帳の代用、新聞、辞書としても使えるようになるだろう。」(『電子メディアと図書館』勁草書房)と述べている。

だが、この装置が田屋氏がいうような応用範囲にとどまるものだとすれば、私はそれを使ってテキストを「読む」ことをしないだろう。出版社がこうした新しいメディアの開発に力を注ぐこと自体は歓迎できるし、この装置の可能性そのものを否定的に考えているわけではないが、少なくとも、言葉の文脈に身を委ねたり文章の論理構造を的確に把握しなければならないとき、この装置のスイッチを入れるようなことはないだろう。

考えてもみてほしい。電子書籍は前後に行きつ戻りつして懸け離れたページに記された内容を結びつけたり要約したりする作業に不向きだし、アンダーラインや書き込みも簡単にはできそうもない。電源がなければ作動しないし、持ち運びも面倒くさい(どんなに小型化しても、電子機器を持ち運ぶのはけっして楽ではない)。読み終えた本を本棚に陳べ、自分の中に蓄積された知識や感興をインデックス化していく喜びも味わえない。本自体の美術的価値なども含め、それを飾ったり、整理したり、自在に取り出したりすることの重要性はいまさら指摘するまでもないだろう。

また、本を手にとって内容をおおまかに確認したうえで購入することができないため、読者にすれば本を探索していく喜びが奪われ、結局、印刷物のブック・レビューが必要になるだろうし(この場合、部数の少ない専門書はますます排斥されるようになる)、逆に書き手や出版側にとっても、情報としてそれを受け取る購買者の利便性・嗜好性が極端に優先されるため、きわめて窮屈な出版状況になりかねない。そうなったら、本はテレビゲー

ムの領域に浸食され、文字で書かれたゲームへと変貌していくことだろう。

と、まあいろいろ書き連ねてみたが、それよりも本質的な問題は、本およびそれを手にする主体が抱え込むことになる歴史性が稀薄になり、私たちが、平板で淀みなく流れていく情報に身をさらすことに何の違和感も覚えなくなってしまうことである。図書館の書庫で埃をかぶっている文献や資料を思い起こせばわかるように、本にはそれが書かれるまでの歴史とそれが書かれてから現在に至るまでの歴史が二重に織り込まれている。けっして優れたものや価値あるものばかりではないが、そうした夾雑さをすんなりと引き受けつつ、なお誰かの手に取られることでまったく新しい世界を拓いていくような息づかいさえある。また読者にとっても、本は自分の過去の記憶であり、未来に向けて放置されている可能性であり、何度も読まれ反復されることで重層的な認識をかたちづくってくれるものである。本に堆積された歴史には、「面白い」とか「役に立つ」とかいった機能性とは別のところで、私たちに血肉化された英知を吹き込んでくれるような力があるのである。

電子書籍が開発され、テキストにアクセスする選択肢が増えていくことはのぞましいが、本と電子書籍はまったく別ものであり、それぞれが独自に進化洗練されなければならない。したがって、あたかも本が電子書籍にスライドしていくような錯覚を抱くことは、実は、双方の進化を阻害し、読書行為そのものの衰退をまねくことになるだろう。

将来の紙資源のことなどを含めて考えると、恐らく、新聞、ある種の雑誌、辞書などは電子情報で読んだ方が便利だということになるだろう。だが、少なくとも『戦争と平和』をモニター上で読むことに積極的な意味があるとは到底思えない。それが、電子書籍に対する私の線引きである。

図書館と電子図書館

すでにおわかりかもしれないが、本と電子書籍の関係は、図書館と電子図書館にもいえる。

大学をはじめとした研究機関の図書館から地域の公立図書館にいたるまで、現在の図書館にはまだまだ改善していかなければならない問題が山積している。電子図書館への食指は、ある意味で、そうした問題の解決を放棄し、すべてをリセットしてしまおうとする逃げ道になりかねない。いくら電子図書館が発達したとしても、図書館には本と書庫が必要なのであり、図書館という＜場＞を無機的な情報機器だけが並ぶメディア・センターにしてはならないのである。

紙面に限りがあるため、最後に、それぞれが併存しながら、なお相互の利点をいかせるような未来像として、私の希望的な提言を述べさせていただく。

それは、まず、＜場＞としての図書館が文献収集をより充実させ、たくさんの人々が自由に集えるような総合文化施設としての機能を持つようになることであり、さらに、図書館そのものをヴァーチャル化した映像に自宅の端末からもアクセスできるようになることである。つまり、たんなる虚構としての仮想図書館ではなく、現実そのものを仮想化し、モニターを見ながら書庫などを自在に歩き回れるようなシステムをつくってほしいということである。

モニターに映る図書館内を歩いて必要な本を手に取り、スイッチひとつで貸し出し手続きがとれたり、フルテキストでモニターに呼び出したりすることができるようになったらどんなに楽しいだろう（注３）。

注１ 詳しい内容は、「21世紀後半を読むプロジェクト」報告書として今年度末に活字化されるので、そちらを参照していただきたい。

注２ もちろん、技術的・予算的問題、著作者の権利、図書館という公共空間の役割などに関しては課題も残されているという。

注３ 本文の作成にあたっては、人文学部教官の飯倉洋一氏がシンポジウム用にまとめられたメモ、および当日の発言から多くの示唆を受けている。

本学関係教官寄贈図書 （受入順）

［本館］（平成10年３月～平成10年８月）

太田　聡（人文学部助教授）

・音韻構造とアクセント　窪薗晴夫、太田聡著　研究社出版　1998　（日英語比較選書　中右実編；10）

渡辺幹雄（経済学部講師）

・ロールズ正義論の行方：その全体系の批判的考察　渡辺幹雄著　春秋社　1998

塚田広人（経済学部教授）

・社会システムとしての市場経済：市場システムの再構成のために　塚田広人著　成文堂　1998

纐纈　厚（人文学部教授）

・検証・新ガイドライン安保体制　纐纈厚著　インパクト出版会　イザラ書房（発売）　1998

・ナショナリズムを読む　情況出版編集部編　星野智［ほか］執筆　情況出版　1998

岩尾康宏（理学部教授）

・両生類の発生生物学　片桐千明著　岩尾康宏［ほか］執筆　北海道大学図書刊行会　1998

鹿江雅光（名誉教授）

・最新家畜微生物学　鹿江雅光［ほか］編　朝倉書店　1998

堂面春雄（名誉教授）

・寝ころんで、物理をつまみ食いしよう！　堂面春雄著　堂面春雄　1998

澤喜司郎（経済学部教授）

・ＢＡＳＩＣプログラミング超入門　澤喜司郎著　成山堂書店　1998

入谷仙介（人文学部非常勤講師）

・『西遊記』の神話学：孫悟空の謎　入谷仙介著　中央公論社　1998　（中公新書；1418）

平野充好（経済学部教授）

・現代企業法学の課題と展開　戸田修三先生古稀記念図書刊行委員会編
　平野充好［ほか］執筆　文眞堂　1998

山本和之（人文学部教授）

・日本語の分析と対照研究　山本和之著　窓映社　1998

［医学部分館］

中村和行（医学部教授）

・生きもののからくり：分子から生命まで　中村和行、高橋進共編　培風館　1998

トピックス　―①―

視聴覚コーナー（呼称：ＹＵＭＥアメニティー）の更新

図書館自由閲覧室に設けてある視聴覚コーナーの充実の為に、昨年度末に予算（教育改善推進費：学長裁量経費）がつき機器の整備とＣＤ（100枚）ＬＤ（60枚）を補充しました。その結果昨年４月～６月の同時期を比べてみると２倍以上の利用になっています。

図書館に是非足を運んでみて下さい。

Ｈ９年	４月	60 回	Ｈ10年	４月	65 回
	５月	68 回		５月	186 回
	６月	72 回		６月	214 回
合　計		200 回	合　計		465 回

平成９年度　図書館統計表

Ⅰ．蔵　書　数（平成10年３月31日現在）

区　分	図書（冊数）			雑誌（種類数）			備　考
	和	洋	計	和	洋	計	
本　館	854,913	333,651	1,188,564	14,923	5,307	20,230	
医学部分館	88,106	82,756	170,862	1,924	2,046	3,970	
工学部分館	87,759	56,946	144,705	1,666	1,553	3,219	
合　計	1,030,778	473,353	1,504,131	18,513	8,906	27,419	

Ⅱ．年間受入数

区　分	図書（冊数）							雑誌（種類数）						
	和			洋			合計	和			洋			合計
	購入	その他	計	購入	その他	計		購入	その他	計	購入	その他	計	
人文学部	3,048	144	3,192	1,104	80	1,184	4,376	304	8	312	213	8	221	533
教育学部	3,894	101	3,995	729	112	841	4,836	456	12	468	302	8	310	778
経済学部	3,842	772	4,614	1,401	599	2,000	6,614	1,246	338	1,584	612	70	682	2,266
理学部	290	89	379	575	492	1,067	1,446	30	1	31	178	10	188	219
農学部	351	80	431	115	43	158	589	161	2	163	119	5	124	287
共通教育	55		55	14		14	69				11		11	11
学生相談所											4	1	5	5
保健センター	23		23				23	7		7				7
埋蔵文化財	3		3				3	7		7				7
医学部（本）	1		1				1	5	1	6	9		9	15
工学部（本）	74		74	140		140	214	7		7	14		14	21
本　館	2,897	2,196	5,093	848	308	1,156	6,249	234	2,339	2,573	117	110	227	2,800
小　計	14,478	3,382	17,860	4,926	1,634	6,560	24,420	2,457	2,701	5,158	1,579	212	1,791	6,949
医学部分館	1,213	580	1,793	283	1,690	1,973	3,766	243	655	898	488	168	656	1,554
工学部分館	1,008	256	1,264	304	1,155	1,459	2,723	287	347	634	473	50	523	1,157
合　計	16,699	4,218	20,917	5,513	4,479	9,992	30,909	2,987	3,703	6,690	2,540	430	2,970	9,660

Ⅲ．利用統計

区　分	開館日数（日）		入館者数（人）			館外帯出者数(人)	館外帯出冊数（冊）		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	計	時間内	時間外	計
本　館	239	226	258,528	67,039	325,567	34,160	43,491	18,487	61,978
	一日平均		1,081	296	—	—	—	—	—
医学部分館	258	240	32,362	28,326	60,688	10,238	12,509	8,430	20,939
	一日平均		125	118	—	—	—	—	—
工学部分館	243	211	150,045	52,377	202,422	15,636	16,169	9,406	25,575
	一日平均		617	248	—	—	—	—	—

Ⅳ．文献複写

区　分		学内者			学外者	他大学等			合　計
		私費	校費	小計	私費	私費	校費	小計	
電子式複写	本　館	25,237	9,200	34,437	9	3,473	3,411	6,884	41,330
	医学部分館	246	7,785	8,031	4	4,534	3,447	7,981	16,016
	工学部分館	155	30,301	30,456	172	379	1,906	2,285	32,913
	合　計	25,638	47,286	72,924	185	8,386	8,764	17,150	90,259
印画引伸	本　館	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅴ．相互協力

	図書館の貸借（冊数）								文献複写（件数）							
	借受				貸出				依頼				受付			
	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計
本　館	560	1	57	618	567	0	301	868	5,743	0	216	5,959	6,884	0	1,479	8,363
医学部分館	6	0	0	6	47	0	11	58	5,152	3	0	5,155	7,981	0	2,716	10,697
工学部分館	16	0	1	17	28	0	24	52	2,366	0	156	2,522	2,684	0	234	2,918
合　計	582	1	58	641	642	0	336	978	13,261	3	372	13,636	17,549	0	4,429	21,978

Ⅵ. 参考調査

	所在調査	事項調査	利用指導	その他	計
本館	842	696	2,648	3,266	7,452
医学部分館	174	115	666	32	987
工学部分館	347	195	73	27	642
合計	1,363	1,006	3,387	3,325	9,081

平10年度　附属図書館各種委員会名簿

◎員は委員長

◇運営委員会

◎川口政宏（館長）
中村和行（医学部分館長）
田中正吾（工学部分館長）
加藤和哉（人文学部）
小原豊志（人文学部）
吉村　誠（教育学部）
福田　修（教育学部）
田淵太一（経済学部）
山下　訓（経済学部）
井上慎一（理学部）
三浦保範（理学部）
佐々木功典（医学部）
浜本義彦（工学部）
梶田泰司（農学部）
甲斐一成（農学部）
森松光紀（附属病院）
塚原正人（医療短大）

◇本館図書委員会

◎川口政宏（館長）
加藤和哉（人文学部）
小原豊志（人文学部）
吉村　誠（教育学部）
福田　修（教育学部）
田淵太一（経済学部）
山下　訓（経済学部）
井上慎一（理学部）
三浦保範（理学部）
梶田泰司（農学部）
甲斐一成（農学部）
矢野正博（事務部長）

◇本館資料選定委員会

加藤和哉（人文学部）
福田　修（教育学部）
◎田淵太一（経済学部）
三浦保範（理学部）
甲斐一成（農学部）
上田照賀（図書館専門員）
高崎鈴枝（資料受入係）
江見伸子（目録情報係長）
赤野　徹（資料サービス係）
鳥谷和世（電子情報係）
松本美智子（情報サービス係長）

◇医学部分館図書委員会

◎中村和行（分館長）
佐々木功典（基礎）
河野裕夫（基礎）
森松光紀（臨床）
小田裕胤（臨床）
塚原正人（医療短大）

◇工学部分館 図書・研究報告委員会

◎田中正吾（分館長）
浜本義彦（運営委員）
栗間諄二（機械）
赤田倫治（応用化学）
松田　博（社会建設）
浅田裕法（電気電子）
村上ひとみ（知能情報）
喜多英敏（機能材料）
河中正彦（感性デザイン）
柏木孝夫（共通講座）

◇図書館情報システム化推進委員会

◎矢野正博（事務部長）
堀内眞也（情報管理課長）
小早川良規（情報サービス課長）
上田照賀（図書館専門員）
藤井良雄（総務係長）
三浦博士（資料受入係長）
江見伸子（目録情報係長）
藤本房枝（資料サービス係長）
渡部哲夫（電子情報係長）
松本美智子（情報サービス係長）
吉光紀行（医：情報管理係長）
岩戸友行（医：情報サービス係長）
赤間篤彦（工：情報管理係長）
吉野君子（工：情報サービス係長）

◇システム業務部会

◎小早川良規（情報サービス課長）
上田照賀（図書館専門員）
渡部哲夫（電子情報係長）
三浦博士（資料受入係長）
吉光紀行（医：情報管理係長）
江見伸子（目録情報係長）
赤野　徹（情報サービス係）
松本美智子（情報サービス係長）
鳥谷和世（電子情報係）

◇附属図書館広報委員会

◎小早川良規（情報サービス課長）
上田照賀（図書館専門員）
石田恭子（総務係）
河本香代子（目録情報係）
中川秀夫（資料受入係）
大沢恵子（資料サービス係）
渡部哲夫（電子情報係長）
堂迫妙子（情報サービス係）
西垣昇治（医：情報管理係）
渡壁辰巳（工：情報管理係）

図書館事務組織の再編について

附属図書館では本年度より、増大している電子情報等に係わるサービスの充実、強化を図るために、係の新設、及び名称変更を行いました。

下記に、各係の業務内容を簡単に紹介いたします。

本館：情報管理課（管理部門）			本館：情報サービス課（サービス部門）		
係　名	電話	業務内容	係　名	電話	業務内容
総務係	(5170)	庶務、会計	資料サービス係	(5182)	資料の貸出、返却等
資料受入係	(5175)	資料の受入、支払い等	情報サービス係	(5183)	他大学との相互協力業務等
目録情報係	(5177)	資料の目録情報作成等	電子情報係	(5185)	電子情報の扱い、電算機管理等
医学部分館			工学部分館		
係　名	電話	業務内容	係　名	電話	業務内容
情報管理係	(2142)	資料の受入、支払い等	情報管理係	(9410)	資料の受入、支払い等
情報サービス係	(2143)	資料の管理、運用等	情報サービス係	(8016)	資料の管理、運用等

人事異動

[定年退職] (10.3.31) 井関　章　（図書館専門員）
[昇　任] (10.4. 1) 上田照賀　図書館専門員（医学部分館整理係長）
(10.4. 1) 渡部哲夫　情報サービス課電子情報係長（医学部分館運用係）
(10.4. 1) 多賀谷玲子　情報管理課総務主任（情報管理課総務係）
(10.4. 1) 須藤　馨　国立山口徳地少年自然の家庶務課会計主任（情報管理課総務係）
[配置換] (10.4. 1) 矢野正博　事務部長（茨城大学附属図書館事務部長）
(10.4. 1) 渡邊正人　大阪大学附属図書館事務部長（事務部長）
(10.4. 1) 小早川良規　情報サービス課長（国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課長）
(10.4. 1) 猪瀬一夫　愛媛大学附属図書館情報管理課長（情報サービス課長）
(10.4. 1) 石田恭子　情報管理課総務係（人文学部・理学部会計係）
(10.4. 1) 御手洗美智子　経理部経理課管理係（情報管理総務係）
(10.4. 1) 守永盛志　情報サービス課情報サービス係（医学部医事課医療情報係）
(10.4. 1) 鳥谷和世　情報サービス課電子情報係（情報サービス課参考調査係）
(10.4. 1) 吉光紀行　医学部分館情報管理係長（情報サービス課参考調査係長）
(10.4. 1) 堂迫妙子　情報サービス課情報サービス係（情報サービス課参考調査係）
[死　亡] (10.8. 5) 山田千恵子　病死（情報管理課目録情報係）

訃　報

本学図書館職員（本館）山田千恵子さんは、病気療養中のところ、平成10年8月5日（水）逝去されました。昭和48年4月に奉職されて以来20有余年にわたり、図書館一筋に、いつも真摯な態度で仕事に打ち込んでこられました。情報化時代に向けて日々進歩している図書館業務に対応・遂行する為に努力をおしまない姿勢は、私達のお手本となるものでした。

長い間のご尽力に感謝すると共に、心よりご冥福をお祈りいたします。

享年46歳

日　誌

［本　館］

3. 3	平成９年度図書館職員研修会
4.23～24	第46回中国四国地区大学図書館協議会総会及び第25回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（徳島）
	川口館長　矢野事務部長　小早川情報サービス課長　上田図書館専門員　藤井総務係長
5.26	平成10年度国立大学附属図書館事務部課長会議（東京）
	矢野事務部長　堀内情報管理課長
5.26～6. 2	第28回中国地区中堅係員研修（広島）
	石田総務係員
6.24～25	第45回国立大学図書館協議会総会（鹿児島）
	川口館長　矢野事務部長　小早川情報サービス課長
	第45回国立大学図書館協議会総会研究集会（鹿児島）
	赤野資料サービス係員
6.29	ＤＩＡＬＯＧ入門セミナー（広島）
	守永情報サービス係員
7. 6～10	平成10年度第１回情報ネットワーク担当職員研修（東京）
	鳥谷電子情報係員
7.13	第78回山口大学附属図書館運営委員会及び第49回山口大学附属図書館本館図書委員会
8. 5～7	目録システム地域講習会（山口大学附属図書館）
	講　師：江見目録情報係長　松本情報サービス係長
	赤野資料サービス係員　岡田（工）情報サービス係員
	受講生：鳥谷電子情報係員　渡邉目録情報係員　林（工）情報サービス係員

［医学部分館］

4. 9	医学部医学科２年生オリエンテーション
4. 9	医療短期大学部新入生オリエンテーション
4.15	医学部生図書館ガイダンス
4.20	医療短期大学部看護学科３年生文献検索講習会
4.21	医学部分館図書委員会（持ち回り）
4.23	医療短期大学衛生学科３年生文献検索講習会
4.27	医療短期大学看護学科３年生文献検索講習会
5. 4	オクラホマ大学副学長来館
5.20	医学部分館図書委員会（持ち回り）
5.21～22	日本医学図書館協会総会（栃木）岩戸情報サービス係長
6.11	医学部分館図書委員会
6.24	大学院共通基礎コース情報検索
7.21	高校生施設見学

［工学部分館］

5.11～28	大学院生（M1）情報検索講習会
5.21	First Search を使った文献検索講習会
5.22	第１回 図書・研究報告委員会
6.18	第１回 電子情報対策ワーキング
7. 9	第２回 図書・研究報告委員会

トピックス ―②―

「Online Journal」サービスの開始

① 附属図書館では、学内端末から Web―Online で利用可能な雑誌をホームページ上でサービスしています。これは、本学で購入中の雑誌のなかで、本学学内者がインターネット上で利用できる Online Journal にリンクしています。

問い合わせ先： 電子情報係（５１８５） 渡部、鳥谷

② 昨年度から検討を重ねてまいりました、 Online Journal (Journals@ovid) を、６月１日から開始いたしました。この "Journals@ovid" は、米国 Ovid Technologies 社が各出版社と提携し、350誌余りの Full Text をインターネットで提供しているものです。

そのうちの64誌（医学雑誌）を契約いたしました。この Journals@ovid は、契約誌のバックファイル（約３年分）を含めた、Full Text 、及び、契約対象外誌の書誌事項と抄録を読むことが出来ます。

なお、ご利用方法や "Journals@ovid" に関する詳細は、医学部分館までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先： 医学部分館 情報管理係（２１４２） 吉光

情報コンセントが設置されました

情報コンセントが、附属図書館本館（24口）と工学部分館（73口）に設置されました。これは個人のノートパソコンを図書館に持ち込み、学内 LAN に接続することができます。接続するためには、ノートパソコンの他、10 BASE－T 用 LAN カードを各自で持参して下さい。

目録システム地域講習会が開催されました

去る、８月５日から３日間、学術情報センターと山口大学図書館の共催で NACSIS－CAT 目録システム地域講習会が開かれました。この講習会は平成８年から開催しており、今年は３回目になります。講師は学術情報センター（富田専門員、中村）、高松高専（井内）、当館職員４名で当たりました。定員は10名で、今回は学外から７名、学内から３名の参加があり、学外の参加者は県内は勿論、広島県、兵庫県からも来られました。

講習中は、一人一人が端末機に向かって実際に本を手に持って実習し、ほとんどが目録業務は初心者、ということもあって、悪戦苦闘する場面もありましたが、無事終了し、全員がこれからの仕事に生かす技術を、それぞれ得て帰られたようでした。

編集・発行 山口大学附属図書館 広報委員会
〒753－8516 山口市大字吉田１６７７－１ TEL：0839-33-5185 FAX：0839-33-5186
E-mail：toshokan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp